

5 都市公園における官民連携事業の円滑な推進について

国への提案事項

社会資本整備総合交付金の確実な配分

- WACTORYパーク揚倉山（揚倉山健康運動公園）の再整備は、民間事業者の資金および知見を活用した官民連携(Park-PFI)により推進しており、令和9年度から女子プロサッカーチームの練習拠点として利用したいと申し出があり、令和8年度中に整備する必要があります。については、必要な財源の確保について要望します。

【令和8年度事業計画概要】 (全体事業費 約22億円)
整備計画名:官民連携型賑わい拠点創出事業 (百万円)

補助対象事業費		1,037
国費	社会資本整備総合交付金 (官民連携型賑わい拠点創出事業)	519

(株)サンフレッチェ広島との連携

- 今回整備するグラウンドは、利用率の低い平日午前中をサンフレッチェ広島レジーナが練習拠点として利用することを踏まえながら検討を進めています。



名称：揚倉山健康運動公園
種別：総合公園
面積：16.3ha
都市計画決定年月日：H3.8.22



○主な整備施設

北エリア (下段)	南エリア (上段)
<ul style="list-style-type: none"> ・グラウンド人工芝 ・クラブハウス ・照明設備 ・駐車場 ・テニスコート人工芝 ・防球ネット 他 	<ul style="list-style-type: none"> ・ウォーキングコース ・照明設備LED化 他

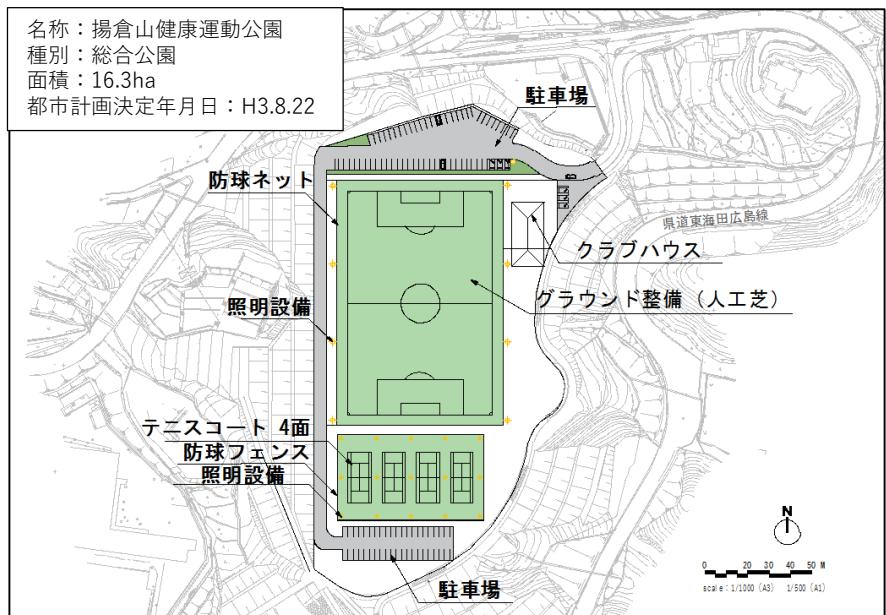
現状と課題

- 揚倉山健康運動公園は、平成3年に都市計画決定、天然芝による多目的広場として整備し、平成8年ひろしま国体サッカーの競技場となつた町内唯一の総合公園です。
- 南エリア（上段）は、平成13年にテニスコート1面、平成14年にクラブハウス、平成15年にテニスコート2面を整備し、令和3年3月には人工芝グラウンドとしてリニューアルし、高い利用率を維持しています。一方で、北エリア（下段）は、平成30年7月豪雨時には災害廃棄物等の仮置場として運用しました。
- その後、令和元年に復旧し通常利用としたものの、従前からの天然芝ではなく土のグラウンドとなり、照明設備もないことから日没以降利用できないなど、上段に比べて利用率が低位に推移しています。

今後の取組方針

- 当公園が有するポテンシャルを最大限に發揮し、官民が連携することにより公園全体として賑わいを創出するよう、施設の再整備を行います。

【北エリア（下段）整備イメージ案】



【グラウンド利用率】

南エリア(上段)

	7～12時	12～17時	17～21時
平日	23%	57%	98%
休日	90%	92%	85%

北エリア(下段)

	7～12時	12～17時	17～18時
平日	6%	5%	2%
休日	62%	66%	6%